

## 令和7年度第3回 姫路市官民データ活用推進会議

別紙

○ 開会

○ 議題「次期計画案の検討について」

事務局	○ 議題に関する資料についての事務局説明
委員	○ 議題に関する質問、意見 計画タイトルについて、前回の「姫路市デジタル戦略」より親しみやすく、かつシンプルで良いものになっていると考える。
委員	事務局説明中のアナログ規制の点検・見直しについて、改めて説明をお願いしたい。
事務局	各行政手続きについては、それぞれ根拠となる法令等があるが、その法令の中で「面談」「書面提出」「現地調査」などを義務化しているものがあり、デジタル化に支障をきたしている。本市では、デジタル庁のガイドラインのもと、これらの規制を総点検し、見直しの検討を進めている。
事務局	アナログ規制の点検・見直しは、アナログによる手続きそのものを否定する趣旨ではない。アナログによる手続きのみを想定した従来規定を、デジタルによる手続きも見据えた規定に再整備することを目的としている。 したがって、点検・見直し後はデジタルとアナログが併存することを想定しており、デジタル化一本というわけではないということをご承知おきいただきたい。
委員	サイバーセキュリティ関係については、新たに専門部署をつくるということか。
事務局	新たに専門部署をつくることを想定しているわけではない。現在も、デジタル戦略室内にセキュリティ部門（担当）があり、DXの推進部門と連携を密にして対応を行っている。情報漏えいやサイバー攻撃の関係は、セキュリティ部門が担当することで、「攻め」と「守り」を並行して行う計画としている。
委員	サイバーセキュリティに関しては、これからの時代においては、他の業務と兼務して行うだけでは足りず、強大な専門組織が必要であると考えがいかがか。

事務局	<p>サイバー攻撃は、主に外部からのネットワークを通じて行われるが、外部ネットワークからの侵入経路は、国の指導のもと、本市及び兵庫県による二重のセキュリティの仕組みを通過する必要がある。</p> <p>国が推奨するシステムを採用している点で、国の対策レベルを満たしており、強固なセキュリティ対策が施されていると考えている。</p> <p>情報漏えいについては、市が調達している各種クラウドサービスについては、I SMS 認証を取得しているサービスを採用するなど、セキュリティ対策が施されたサービスを選択することである程度回避できると考えている。</p> <p>これらのルールの策定と遵守を徹底することで、致命的な被害は防ぐことができると考えている。</p>
委員	<p>サイバーセキュリティについては、すでに全庁的な基準を設定されていると思うが、本計画記載の施策等は、既存の枠組み内で行っていかうというものなのか。それとも、既存の基準に上積みする形で、新たにサイバーセキュリティ戦略のようなものを定めようとしているのか。</p>
事務局	<p>サイバーセキュリティの基準については、国の指導や統一的な基準（ガイドライン）に準拠する形で、市のセキュリティポリシー等を改正し対応する予定である。</p> <p>本計画は、これらの市としての基準やポリシーの枠組み内でどのようにDXを進めていくかを計画するものである。</p>
委員	<p>国のガイドラインでは、CSIRT組織を立ち上げる方向性であるが、姫路市においても今後CSIRT組織を発足させる予定か。</p>
事務局	<p>現行基準においても、常設ではないもののCSIRT組織は発足済みである。平常時はデジタル戦略室内のセキュリティ部門において組織の庶務等を行っており、有事の際に速やかに組織・対応できるよう、日ごろから訓練を行っている。</p>
委員	<p>庁内でインシデントが発生した際に、最初の窓口となる担当はどこかに明記されているか。最近の傾向として、一つのインシデントが波及し組織全体に広まるケースが多く、初</p>

事務局	<p>期対応が非常に重要である。迅速な初期対応のためにも、インシデント把握から行動までのタイムラグをいかに少なくするかが重要である。</p> <p>最初の窓口（連絡先）として基準やポリシーそのものに明記されている箇所はないが、庁内各所属は、セキュリティインシデントが発生した場合は、デジタル戦略室に報告することになっている。</p> <p>また、個人情報漏えい事案に関しては市民局、事務処理ミスや職員不祥事案は総務局が担当することとなるので、デジタル戦略本部を含む3局で連携して対応している。</p> <p>さらに、デジタル戦略室で受けた報告は、兵庫県や総務省へ報告する体制となっている。</p>
委員	<p>本計画のセキュリティパートについては、他の基準やセキュリティポリシーと合わせて、サイバーセキュリティに精通した人材が見ると理解できるが、一般市民の方々が見たときに、理解できるか疑問に思う。セキュリティ対策が施されているということは市民の方々の安心感に直結するので、もう少しわかりやすい表現や具体的に記載するといった工夫が必要だと考える。</p>
事務局	<p>有事の際の対応等をわかりやすく記載することを検討したい。</p> <p>今般、地方自治法が改正され、サイバーセキュリティ対策を強化することが盛り込まれたところである。特に委員ご指摘のC S I R T組織についても何らかの形で記載することを検討したい。</p>
委員	<p>これらのインシデントは、インターネット接続の遮断などをC I Oが瞬時に判断し、行動を指示する必要がある。今日、インシデントは複雑化かつ巧妙化しており、このような体制構築は必須である。</p> <p>先ほどの委員のご指摘は、姫路市においても有事の際に、C I Oなどが瞬時に判断し、行動を指示できる体制が整えられているのかという趣旨だと思う。</p>
委員	<p>そのとおりである。</p> <p>まずは体制の構築・運用が最も重要であるが、体制を外部に示す必要がある。</p>

委員	<p>技術的なことや庁内の体制は先ほどの議論のとおりだと思うが、デジタルを活用する利用者目線に立つと、今日の巧妙化する詐欺の手口から、詐欺を疑ってしまうケースが多いと考える。</p> <p>例えば、「市役所職員や警察官が、銀行口座の暗証番号を尋ねることはない」「市から〇〇に関する通知を発送した」等の情報発信を行うことで、市民の不安を多少なりとも軽減できるのではないかと考える。このような利用者の不安を取り除くことが、デジタルを普及させる上では必要であると考えている。</p> <p>最新の詐欺の手口も、迅速に発信していかないと手口が認知される前に莫大な被害を出してしまう恐れがある。</p> <p>デジタルのすそ野を広げようということで、本計画はデジタルに不慣れな方についても、デジタルの恩恵を受けていただくことが狙いの一つとなっていると認識しているが、そのような方々を含め、特殊詐欺の被害者を出さないための対策は必須である。</p>
委員	<p>デジタル技術の進歩は目まぐるしく、スピード感は非常に重要だと考えている。</p> <p>本計画の重点施策については、策定時には最新であっても、後発でそれを上回る画期的な技術が登場しているかもしれない。技術の進歩や世の中の潮流にも柔軟に対応できるように、計画にその旨を記載するべきである。</p> <p>また、重点施策中（P32）の官民におけるデータの利活用について、非常に興味を持っている。官が持つデータ・民が持つデータそれぞれ取扱いに課題や制約がある中で、それをクリアし、積極的に活用しようという方向性は素晴らしいことだと考える。</p> <p>デジタル戦略本部だけでなく、他の部局においても、本計画の認識のもと積極的なデータ利活用や保有データのオープンデータ化を働きかけていただきたい。</p> <p>経済界においては、特に人口の動きに関する関心が高い。市が持つ転入出のデータが経営判断の材料となることは間違いないので、この方向性に基づき、民と連携した分析・研究をお願いしたい。</p>
事務局	<p>計画は策定して終了ではない。世の中の潮流や予算など様々な要素により状況が変化することが考えられる。これらを加味し、本会議でご意見をいただきつつ、柔軟に改定などの対応を行っていきたい。</p> <p>データ利活用に関するご意見について、現状、市のオープンデータはカタログサイト等ですでに提供しているが、庁内の利用に限ったデータもある。令和8年度以降、これらの非</p>

委員	<p>公開データも含めて、オープンデータ化を行い、本市の立ち位置や地域の状況をデータの観点から可視化できる仕組みを整備したい。</p> <p>重点施策中、P19 のこどもデータ連携の推進についてぜひ進めてほしい。これまでは妊娠期から乳幼児期の記録は全て手書きで、かつ保護者が記録しなければならなかった。</p> <p>子どもが小学校へ進学する際、出生から現在までのことを事細かに記載し、学校へ提出する必要があり、非常に困った経験がある。行政が保持している情報を保護者の同意があれば自動で各機関へ連携される仕組みは画期的であり、保護者の負担も大幅に軽減されると考える。</p> <p>関連して、同ページのA Iを活用した福祉相談チャットシステムについても、連携されたパーソナルデータを活用し、質の高い回答を期待している。養育や発達に関する些細な相談事であっても気軽に相談できる体制の構築にも取り組んでいただきたい。</p> <p>加えて、教育現場におけるデジタル学習コンテンツの充実について、私の子どもが実際にデジタル学習コンテンツを活用するようになって、成績が向上したことを目の当たりにし、デジタルコンテンツの効果を実感したところである。教育現場における積極的な利活用を期待している。</p> <p>最後に、これらの様々なデータ連携について分野ごとに別システムで管理されていると利用者側としては使いにくい。様々なデータが集約され、共通のシステム（アプリ）で利活用できる状況が望ましいと考えるがいかがか。</p>
事務局	<p>こどもデータ連携につながる取組として、姫路市医師会様にご協力いただき5歳児健診をモデル実施する予定である。これは発達状況等を事前に把握し、スムーズに就学につなげていくことが目的である。</p> <p>現在、市の保健部門、福祉部門、教育部門及びデジタル部門が連携して検討を行っているが、委員がご指摘のとおり、各部門のデータが繋がっておらず、非効率であることを痛感している。これらの非効率を解消するためにデータ連携の取組は有用だと考えているところであり、本計画の重点施策においても記載することとした。</p>
事務局	<p>A Iを活用した福祉相談チャットシステムについては、ハルシネーションや庁内外の受け止めなど様々な課題がある。これらの課題について慎重に検討していきたい。</p> <p>デジタル学習コンテンツの充実について、現状の姫路市学習プラットフォームは、中学生</p>

	<p>のみを対象としているが、小学校高学年から高校生へ拡充することを検討している。</p> <p>システムを共通化するという考え方についてはご指摘のとおりである。令和7年度において、給付等のシステムを全庁統一的に運用する取組として、ひめじスマートウォレットサービスを実装し、共通化を図ったところである。</p> <p>全てのサービスやデータを共通化・一元管理し、パーソナライズされたプッシュ通知等ができればとは考えているが、現状技術的・制度的な制約があり実現には至っていない。セキュリティの確保も課題である。これらの課題を洗い出し、慎重に解決していくことで、データ連携を推進し、構想を実現したいと考えている。</p>
委員	<p>地域通貨（資料 P29）は、うまく活用できれば地域振興に非常に有用であると考えている。一方で、デジタル通貨やポイントシステムは不正アクセスの標的になっており、強固なセキュリティ対策を施す必要がある。これらをクリアしたうえで、住民・来訪者双方の視点で循環する仕組みを作り出すことが重要である。</p> <p>今や詐欺被害は全世代に及んでいるにもかかわらず、ほとんどの市民は「自分は詐欺被害には遭わない」「自分はだまされない」と考えていることが、データからもはっきりしている。</p> <p>デジタルに関する相談窓口だけでは、このような詐欺被害は防ぎきれないため、デジタルに限定せず生活に関する困りごと全般を気軽に相談できる体制を整えていただきたい。</p> <p>第2回会議でも言及し、計画への記載を要望したが、私が想定する記載にはなっていないため改めて要望する。詐欺対策専用窓口相談しに来る頃には、被害がある程度進行していることが多く、未然に防ぐためには詐欺に限らず些細な日常相談窓口を設置し、そこから拾い上げていくしかないと思う。</p>
事務局	<p>各システムやアプリにおけるセキュリティ対策が非常に重要であるということは認識している。</p> <p>今年度、プレミアム付商品券事業である「ひめじしらさぎ商品券」事業について、前年度より本人確認やセキュリティを強化して実施したが、レスポンスが遅い、操作が複雑等の理由から利用者からの評判は良いものとは言えず、数々のお叱りを受けた。</p> <p>セキュリティ対策を強化しすぎると使い勝手が悪くなり、利用者から敬遠されることを痛感した。セキュリティと利便性は相反するものかもしれないが、双方を追求していきたい。</p>

委員	<p>相談窓口については、庁内において様々な相談システムやアプリが構築され、乱立状態になりつつある。利用者にとっても複雑となり混乱を招く恐れがあるため、共用化等を含めた整理を行う必要があると考えている。その中で、詐欺対策も含めて検討していきたい。</p> <p>ひめじしらさぎ商品券については、1ユーザーとして利用させてもらったが、確かにこの度のシステムは本人確認の認証等が何度も行われたり、決済の際にやや時間を要したり等の問題があったと記憶している。しかし、不正利用防止対策による副作用であり、ある程度は仕方ないと個人的には考えている。</p> <p>私は保育園で勤務しており、園児の入退園の管理をデジタル管理するシステムを導入した。保護者へ利用方法等を説明した際に、些細な操作でも戸惑われる方は一定数いらっしゃった。</p> <p>デジタル技術を活用した市民の利便性向上の方向性には賛同するところであるが、このように、少しの日常の変化でも戸惑う方は一定数いると思われるので、丁寧な説明や対応が必要であると考えている。</p>
事務局	<p>委員ご指摘のとおり、サポート体制は重要だと考えている。</p> <p>令和8年度、メタバース型の市役所を構築する構想がある。メタバース内で気軽に相談できる体制を整えることも一案だと考えている。</p> <p>これらを踏まえ、次年度以降最善のサポート方法を研究していきたい。</p>
委員	<p>デジタル技術を活用して様々な制度を最適化していく方針はよいが、利用者がその恩恵を十分に理解していない現状がある。例えば母子手帳アプリについて、「メリットが良くわからないので、活用していない」という声を聞いたことがある。</p> <p>新規利用者を獲得するとともに、地域のウェルビーイングを達成するためには、利用者が受ける恩恵をわかりやすく発信していくことが重要である。</p>
事務局	<p>サービスの広報については、昨年度（令和6年度）事業として、地元のインフルエンサーと協力し、市のサービス紹介をインスタグラムなどのSNSに掲載してもらい、普及促進を図った。これらの取組が継続的に必要であると考えている。</p> <p>また、市民の声を施策に反映させる仕組みや、AIにインターネットの情報を解析させ、市民の方々が求めている施策を見極めることも重要である。</p>

	<p>どのように広報すれば効率的で市民の方々の認知も向上するか、委員の皆さまの意見をお伺いしたい。</p>
委員	<p>デジタル化推進からは逆行するようだが、最終的には良い情報は口コミで広がっていくと考えている。友人や家族に広めてもらうために、いかにアピールしていくかが重要である。</p>
事務局	<p>市民の方々からお尋ねいただくと回答するAIチャットボットは導入したいと考えている。しかし、チャットボットは最初に市民の方々からアクションを起こしていただく必要があるため、そこが課題である。</p> <p>委員ご指摘のとおり、市民の方々にどのように伝えていくかが重要であると認識しており、事務局素案も重要性を記載しているつもりである。</p>
委員	<p>事務局素案でも確かにそのように記載していることは読み取れる。計画を達成するために新たにサービスを導入するばかりでなく、既存のサービスでも実現できることがあるので、まずは既存のシステムでできないか検討してほしい。</p> <p>5歳児健診事業については、明らかに発達状況に不安がある人は、保護者が個別で医療機関等に相談しており、発達状況を把握していると考えられる。発達の遅れが軽度である等、素人では判断できない状況にある子どもを専門家の視点から早期に発見し、早期に対策を開始することが目的であると推察するが、その検討チームとして、医師や市の担当部署だけでなく、保育現場や学校現場の担当者が参画し、一体的に検討すべきである。</p>
事務局	<p>5歳児健診については、保育現場、小児科医、教育現場などにも意見を聞きながらフォローしていく予定である。</p> <p>委員ご指摘のとおり、発達面の問題は早期発見と早期対策が重要となってくる。今後、担当部署経由で意見を聴取するので、協力をよろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>事務局素案の重点施策については、よく整理されておりわかりやすかった。</p> <p>全ての施策にデジタルを活用すれば、シビックプライドの醸成やウェルビーイングの実現へつながっていくかといえば、必ずしもそうではない。</p> <p>重点施策中 P27 は、ウェルビーイング指標のうち、事故・犯罪の数値が低いことを意識</p>

事務局	<p>した施策だと思われる。</p> <p>見守りカメラの設置は、近隣市の取組でも犯罪認知件数が減少するなど犯罪防止に一定の効果があり有用な取組であると考えている。A Iなどの技術を活用できれば、さらに良いものになり住民に安心感を与えることができるため、ウェルビーイング指標における主観指標の向上も期待できる。</p> <p>ウェルビーイング指標の向上に向け、指標ごとに優先順位をつけて、対策していくということも一案である。</p> <p>A I機能を搭載したカメラで地域の見守りを行っている事例は、私が知る限りは聞いていない。</p> <p>指標の優先順位については、ご指摘のとおりである。全方位戦略では全てが不十分となる可能性が高く、リソース面でも課題である。重要な項目や課題となっている項目を絞って効率的な施策を実行したい。</p>
委員	<p>施策や仕組みの方向性は整理されている一方、これらを運用していく人材の育成や組織体制との接続がやや見えにくい。</p> <p>例えば、教育D X関係（P19）では、教員の理解度やデジタル技術の活用能力、現場の体制などに大きく依存する。</p> <p>現場支援について、具体的な運用や体制整備まで含めてどのように検討しているのか。</p>
事務局	<p>働き方改革を推進する観点で、デジタル技術を活用した業務補助ツールを積極的に導入し、職員の負担軽減や効率性の向上を目指している。また、デジタルの恩恵を最大限に受けるための研修も行っている。</p> <p>教職員も同様であると考えているが、教職員については、教育振興基本計画において具体的に記載されているので、本計画との整合性について確認したい。</p>
会長	<p>時間となったため、本日の議論はこれにて終了する。</p> <p>本日の議論を踏まえ、事務局案を修正しパブリック・コメント素案としたいと思うが、素案の確認は、会長一任としたいので、ご了承いただきたい。</p>

○ デジタル・マネージャーからの意見

<p>デジ タル・ マネー ジャー</p>	<p>本日委員の方々がご指摘されたことは、市役所内部で既に検討が始まっている事項もあり、委員の皆さまにもご認識いただけたと思う。</p> <p>本計画は、あくまで「戦略」の策定であって、これらを実行する段階でご指摘事項を踏まえ、具体化されていくと思う。</p> <p>重点施策について、成果を出しにくい施策も多々あるかと思うが、他団体の先進事例を参考にしてほしい。</p> <p>市から市民へフィードバックする仕組みについても検討されているようだが、ぜひ本計画の進捗状況についても市民へ公開してほしい。市民と一体となることで協力も得られやすいと考えるのでぜひお願いしたい。</p> <p>AIとサイバーセキュリティについては、これからの時代避けては通れないと考える。現状、日本の自治体においては、三層分離等で守られているため、本日議論にあったサイバー攻撃等のリスクは相対的には低いと考えている。しかし、三層分離は市民の方々や職員の利便性と相反することから、見直しの意見が上がっており、仮に見直すとなると現状のセキュリティ対策では、残念ながら不十分だと言わざるを得ない。相対的にリスクが低い今のうちに、何をどのようなレベルで防御するのか検討し、準備をする必要がある。</p> <p>サイバーセキュリティ対策を行うにあたっては、専門人材が必要である。人材の確保・育成が不可欠であると考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回は5月下旬頃の開催を予定している。事務局から日程調整をさせていただくのでよろしくお願いしたい。</p>

17時01分 終了